

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和7年12月1日（月）
文責：情野 夏美

マイスター配置校 松川小学校に行ってきました！

先日、マイスター配置校 米沢市立松川小学校 田中先生の授業を2つ見せていただきました。以前回覧した奈須先生の「個別最適な学びと協働的な学び」の本の中にある、天童中部小学校の取り組みが実践されていました。目からうろこなことばかりでしたので、みなさんに共有させていただきます。いつも字ばかりですみませんが、ぜひ、最後までお読みください。本も回覧しますので、ご覧ください。

1、じりつ学習（2教科の単元内自由進度学習）算数「拡大と縮小」と理科「てこ」

- 教材や環境が整っていて、児童は学習しやすいと思った。
- 授業の初めに、学習の手引きで、今日やることを確認していた。
- 単元の途中に先生チェックがあり、先生はただ確認するだけではなく、どうやって求めたのかを聞いていらっしやった。より、児童の理解度を把握できると思った。また、掲示を活用して、どの考えを使って解いたのかを確認する場面もあり、既習を生かした学びになっていた。
- 本時は3／16時間のということであったが、児童たちは慣れている様子だった。7月にも一度行っているそうだ。新しいことに挑戦してやってみる、慣れていくことが大事であると感じた。
- 黙々と課題に取り組む児童や友達に聞く児童など、全員が学習に対して前向きで、集中力が素晴らしかった。ぼーとしている子がいなかった。
- すべてワークシートで学習を進めていた。また、すべての答えを用意されていたので、自力で学習を進めることができていた。
- 教室とイングリッシュルームの2か所で行い、好きな場所で、好きな人と学習できる環境がいいと思った。隣同士で、違う教科を学習していたり、算数をしている児童が理科を教えたりと、普段では見ることができない場面を見ることができた。
- 先生は、まんべんなく、全員を見取っていた。必要以上に声はかけず、軌道修正したり、進捗状況を確認したりしていた。
- 2クラスあるが、今回は本クラスのみ実施しているとのこと。よって、教材研究や準備はお一人でされたそうである。時間がかかる上に、準備が大変そうである。2クラスならば、教科をわけたり、ICTを活用したりといった工夫があるとのことだった。



※裏面もあります！！

2、つながる学習（児童が進める一斉学習）社会「蘭学」

- ・45分間2人の児童が話す人、3人の児童が板書係と先生役となって授業を進めるスタイルでした。先生役の児童は、今日教える内容を家でノートにまとめてきたそうです。何回か先生役を行っている児童たちということもあり、学習の流れをしっかりと把握していました。（学習の流れは、タブレットに送られているようです。タブレットで流れを確認しながら、先生に相談することなく進めていました。）先生は、授業の様子を横で見ながら、押さえないところでは話を手短かにされていましたが、ほとんど見守っていらっしゃいました。たまに、先生役の児童にアドバイスを送られていました。
- ・「つかむ→あつめる→せいりする→まとめる」という流れで授業を進めていました。普段からその流れで見通しを持って行っていれば、児童が先生役になっても、授業ができると思いました。
- ・児童が先生役でも、他の児童は真剣に授業に取り組み、挙手発言も多くていい雰囲気でした。
- ・先生役の児童がまとめてきたことを発表するのではなく、児童が考える時間、友達と相談できる時間、近くの友達と考えを発表する時間（写真右）、みんなで共有する時間がたくさんありました。
- ・教科書や資料集をフル活用していました。「教科書のここを見ればわかる。」がわかっている児童が多かったです。
- ・児童からでなかった意見で大切なことを落とさずに、みんなに伝え、書いてくださいと言っていたことに驚きました。児童の教材研究の深さに驚きました。
- ・電子黒板で、デジタル教科書を使い、必要なものを見せていました。
- ・先生のように、机間指導する姿も見られました。
- ・板書役の児童も相談し合いながら、わかりやすいように場所を変えながら書いていました。（写真左）



3、全体を通して感じたこと

- ・児童に委ねることは、とても勇気のいることであるが、一斉授業に慣れている児童であるので、案外、自由進度学習でも、児童が進める学習でも、自分でも進められそうであると感じた。何でもやってみることが大切。
- ・ICTをどう組み込むかが大事であると感じた。
- ・児童主体だと、やる気が高くなりそう。
- ・授業を自分事として考え、取り組む児童が多かった。